



キャンパスマスタープラン2017（補強版）の改訂概要

背景

- ◆ 施設整備費概算要求においてCMPに関する取組がひとつの評価指標になっており、平成31年度概算要求では、本学は同指標がc評価であった。  要求事業全てが減点（-1）
- ◆ CMPに関する取組について、1月に文科省整備計画室の担当者より評価に関して下記の助言を頂いた。
 - ◎ CMPは大学自ら目標を設定して、事業を計画し、実績を重ねていくことが重要なこと
 - ◎ CMPの評価項目のうち、部門別計画の評価が低いこと

部門別計画とは

- ◆ ①ゾーニング ②パブリックスペース ③動線 ④建物配置 ⑤サステイナブルな環境・建築 ⑥インフラストラクチャー
キャンパスの骨格を形成する6つの部門の計画を立てる

- 戦略的なキャンパスマスタープランづくりの手引き平成22年3月版に、部門別計画の具体的な留意点が示され検討することが求められている

改定に関して

- ◆ 今回、CMP2017（補強版）のうち、部門別計画を全面的に見直し、来年度の概算要求において要求事業の総合S評価を目指す

ゾーニング

【各ゾーンの適正な用途・構成・規模の設定】

- ・丘陵地形のキャンパスにおいて、大きく3段に分かれる水平地盤レベルに適正なゾーンが形成
- ・教育研究ゾーンは石狩湾を見下ろす高層建物群、管理共通・福利厚生ゾーンは正門と同一地盤レベルの開放的な低層建物群を配置
- ・将来の講義棟・研究棟の改築については、1号館東側駐車場に総合研究棟を整備し、以降スクラップアンドビルドを実施

パブリックスペース

【環境と調和するスペースづくりとバリアフリー対策】

- ・大学会館前の広いスペース、講義棟前の保全緑地を緑豊かなキャンパスを印象付ける空間として整備
- ・バリアフリー整備事業の基本計画を推進し、安全なキャンパスを提供

動線

【安心快適で環境にやさしい移動空間】

- ・急勾配の市道から構内にアクセスできる場所が限られており、現状の動線を最大限活用
- ・主要動線の安全対策、停留所から講義棟までのロードヒーティングを整備

建物配置

【調和のとれた建物景観や配置】

- ・周辺環境に調和させるため、低層建物群は階高15m以下、高層建物群は階高25m以下に設定
- ・ユニバーシティカラーを基調とした色彩を継承
- ・CGS4部門の将来的な管理共通ゾーンへの集約化

サステイナブルな環境・建物

【持続性ある環境や建物づくり】

- ・海側からの自然風や山からの豊富な湧水の活用、断熱性の向上
- ・今後の改修においてタイル壁を取り止め、塗装壁に変更

インフラストラクチャー

【エネルギー需要の把握や効果的な運用】

- ・消費エネルギーやCO₂排出量の今までの実績や今後の予想
- ・インフラのエネルギー転換や今後の需要に対するライフラインの供給体制
- ・効率的なエネルギーマネジメントの運用

その他

- ・今までの取り組み実績とする参考資料として、バリアフリー整備事業基本計画（一部抜粋）、環境マネジメントマニュアル（一部抜粋）、エネルギー消費量・CO₂排出量の推移グラフ、受変電設備改修計画のランニングコスト、空調設備改修計画のランニングコスト、電力配線図およびガス配管図を添付